審議会等の会議結果報告書

【担当課】　生涯学習課

会議の名称	令和８年度　第１回茅野市社会教育委員の会議		
開催日時	令和８年７月８日（水）午前１０時００分～正午		
開催場所	茅野市役所　７階　701・702 会議室		
出席者	矢崎智義委員長、竹内郁子副委員長、市川純章委員、小林俊男委員、猿谷大和委員、島立幸男委員、宮坂章委員 山田教育長、小池生涯学習部長、矢嶋生涯学習課長、武居生涯学習係長、小坂文化振興担当、池井生涯学習係主事、畑中教育支援指導主事、伊藤図書館統括、東城文化財課長、柳川文化財係長兼守矢史料館長、山科尖石縄文考古館長、今井考古館係長、正木博物館係長、上条スポーツ健康課長、笠原スポーツ健康係長、宮下自治・協働課長、小島中央公民館長、五味公民館係長、両角こども課長、野明こども係長		
欠席者	渡辺修委員		
公開・非公開の別	（公開）・ 非公開	傍聴者の数	０　人

議題及び会議結果

発言者	協議内容・発言内容（概要）
	１　開会 ２　委嘱書の交付 ３　教育長あいさつ
教育長	新たに委員になられた方もいらっしゃいますが、どうぞよろしくお願いいたします。 昨年度から矢崎委員長のもとで、社会教育のあり方や、社会教育委員は何をするのかという根本的な議論を積み重ねていただきました。そのなかで一歩一歩ですが、新たな方向が見えだすところまで来ているのではないかと思っています。 全国的にも「社会教育委員の仕事を含めて何をやっていいかわからない」といったことが議論されていますが、結局は「新しい時代に対応し、新しい時代を作っていく社会教育のあり方」という点が、これまでの議論のなかで欠けていたのではないかと感じています。「学びと自治」はとても大切な言葉ですが、どうしても戦後間もない当時のイメージを思い浮かべてしまい、行政のあり方も当時のものに帰っていこうとする発想に陥りがちです。やはり、これからの時代をどうしていくかという観点で、社会教育のあり方をもう一度問い直す必要があるのではないかと思います。 今日は牧野先生のご講演から学ぶ機会を設けていただきましたので、もう一度ゼロから考え直してまいりたいと思います。 先日、牧野先生の資料をいただいた際に、社会教育の行政評価のあり方として「AAR (Anticipation, Action, Reflection)」という考え方を出されて

	いました。それを見てハッとしたのですが、学校現場ではこの 20 年ほど「PDCA」を回しています。しかし、PDCA は学校の教育活動をうまく評価できないのです。例えば「運動会をスムーズに運営する」といったことなら PDCA で良いのですが、「運動会で子どもたちがどれだけ満足感を持って成長し、伸びていくか」を評価するときには使えませんでした。そうしたなかで、現在の学校では「OODA (Observe, Orient, Decide, Act)」という考え方も入ってきています。いずれにしても、様々な評価手法をその場に応じて柔軟に使い分けていくことが大切だと思っております。 　少し蛇足になり、学校の事例と結びつけてしまいましたが、本日はどうかよろしくお願いいたします。 ４　委員長あいさつ
委員長	初めての方もいらっしゃいますので、これまでの経緯を簡単にご説明いたします。 　昨年度、「そもそも社会教育委員会とは何なのか」という議論が始まり、職員の皆さんを含めて意見を出していただきました。その結果、大きく分けて「会議の目的ややり方」と、「学びを自治や地域に還元する社会性の観点」という２つの方向性が見えてきました。これらをどう進めていくべきか模索するなかで、様々な資料や本に当たり、本日上映する牧野先生の講演にたどり着きました。 　これまでの資料と決定的に違うのは、最も新しい考え方であるという点です。先ほど教育長もおっしゃったように、戦後から続く長い歴史がありますが、当時とは時代背景が異なります。そこには教育、ひいては社会に対する深い危機感があり、それをどう乗り越えるかという問いがあります。 　今回は中央教育審議会の「第４期教育振興基本計画」を策定するための委員会での議論がベースになっています。メンバーには NPO 法人や大学教授、企業の取締役などの方々が集まって議論をされていますが、その内容が、私としては最もしっくりきました。社会教育とは何か、どう進めていけば何が大事なのか、という観点が網羅されているように思います。 　牧野先生は生涯学習分科会の生涯学習人材部会で部会長をされており、生涯学習の観点から日本の教育を見ている方ですので、非常に参考になるかと思います。上映後、色々と議論をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 ５　自己紹介 ６　本日の会議内容について ７　審議会の公開について 　審議会の公開について事務局から説明。 　本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開することで決定。

	８　会議事項 （１）社会教育関係団体への補助金の交付について （資料に基づき、事務局から説明を行う。）
委員	昨今、中学校部活動が「地域移行」から「地域展開」という形に変わってきています。既存のスポーツ協会やスポーツ少年団などもかなり関わることになるかと思いますが、今回の補助金申請と地域展開はどのように関連し、変化しているのでしょうか。
スポーツ健康課長	部活動の地域展開にあたっては、従来の部活動から活動の場を「登録地域クラブ」などに移していくなかで、スポーツ協会に所属されているチームや指導者の方々にご協力をいただいています。 そのため、補助金のなかにも地域展開に関する費用を盛り込ませていただいております。実際の活動を受けていただくための事前準備などを含め、市の教育委員会と一緒になって地域展開を支えていただいているという状況です。
委員	そうした現在の変化が、資料に少し記載されているとより分かりやすいと感じました。
委員	私は昨年初めてこの会議に参加し、社会教育関係団体への補助金審議を行いました。当時は何もわからないまま賛成の手を挙げたのが現実でした。 今年の資料を見ても、やはり同様の気持ちですが、先ほどのお話だと昨年は７つの社会教育関係団体に補助金が出ていたのに対し、今年は１団体となっています。この「7から１に減った経緯」についてご説明いただけますか。
生涯学習課長	市役所の方で「補助金の見直し作業」を進めており、関係する市民の皆様とも協議を重ねてきました。 これまで、ボーイスカウトやガールスカウト、女性団体連絡協議会といった社会教育関係団体への運営補助を行ってまいりましたが、行財政改革のなかで「補助金は団体の運営補助ではなく、事業に対する補助でなければならない」という原則があります。また、立ち上げ当初を支援する「３年間の始動・模索的なもの」を基本とする考え方もあります。 そうした観点から、各団体の財政状況もヒアリングしながら存続や廃止の議論を行い、結果として他の団体への補助金は廃止とさせていただきました。ただし、その受け皿として「市民活動センターゆいわーく」に門戸の広い『みんなのまちづくり支援事業補助金』がありますので、そちらへ申請していただくようご案内を進めております。
委員	ということは、社会教育関係団体そのものへの支給ではなく、各事業に対して支給するという考え方に整理されたということですね。
生涯学習課長	その通りです。社会教育関係団体に様々な事業を行っていただき、それに対する補助という形になります。

委員	「市民活動センターゆいわーく」への申請ができるという周知は、各団体にしっかりと伝わっているのでしょうか。
生涯学習課長	はい、周知はさせていただいております。
委員	私も多少関わっておりますが、美術協会についても補助金カットがあり、新たに申請方法を変えたという経緯を経験しました。今年もそういった形で、美術協会などへの支援はお考えでしょうか。
生涯学習課長	美術協会については、市の美術展を運営していただいています。これは補助というよりも「市も一緒になってやるべき事業」であるため、３年間の期限付き補助金ではなく、市からの「負担金」へと切り替えさせていただきました。市展を運営していただいている限り、市が負担金を継続して支出する仕組みに変えております。
委員	今回のスポーツ協会への補助金は金額が非常に大きいため、1 団体だけにこれだけの額が支給されることには多少の疑問も感じていますが、ここで細かい議論をするよりは、今後しっかりと精査・確認していきたいと思います。
委員	今の説明を聞きますと、この会議がお金を決定しているのか、あるいはその前に事務局が審議をして配分を決めているのかが少し分からなくなりました。その絞り込みにおける公平性や透明性、またそうしたやり方で良いのかという価値観の設定はどのようになっているのでしょうか。
生涯学習課長	社会教育法に基づき、「社会教育関係団体に対する補助金については社会教育委員の意見を聞かなければならない」となっております。本日の場が、その審議をしていただく場という位置づけになります。
委員	そうすると、行政の一方的な方針ではなく、各団体と話し合って合意の上で申請を見送ったという解釈でよろしいですか。
生涯学習課長	はい。廃止の決定にあたっては各社会教育関係団体と協議を重ね、合意を形成した上で庁内決定を行ってまいりました。
委員	ただ、美術協会の場合、50 年の歴史があり市の共催事業でもあることから、一方的に「廃止です」と連絡が来た後に、粘り強く交渉して負担金へ切り替えてもらったという経緯があります。他の団体とも本当に十分な話し合いとコンセンサスが得られていたのか、一方的にダメだと言われて受け入れただけではないのかという点は、少し疑問が残ります。７団体から１団体への減少は非常に大きなインパクトがありますので、金額が大きい団体も含めて「はい、オッケーです」と簡単に結論を出して良いのか、まだ十分に納得がいかない部分もあります。

生涯学習課長	一方的に「廃止します」というご連絡ではなく、見直しの必要性から「一緒に話し合いをさせてほしい」という形でアプローチを行い、十分な協議を行った結果としてまとめさせていただきました。
委員	結果として大きな変化ですので、今後のなかでしっかりと内容を確認していきたいと思います。
委員	そうした見直しの経緯は、どこかで検証可能なドキュメントとして残っているのでしょうか。後から「なぜそうなったのか」が分からなくなるのは不都合だと思います。
生涯学習課長	現在は一般公開されているわけではありませんが、情報公開請求等で開示できる性格のものです。また、皆様からご要望をいただければ、次回の会議でこれまでの見直しの経過・議事録等をお示しすることは可能です。
委員	次回それを見せていただけるのであれば、担当課に記録が残っているかどうかも含めて確認したいです。
委員	（２）これからの社会教育について お配りしている文部科学省の「第４期教育振興基本計画（概要版）」は、教育基本法を具体的に進めるための５年計画ですが、これだけを読んでもなかなか理解しづらいかと思います。 本日視聴するビデオの講師である牧野篤先生（大正大学教授、東京大学名誉教授、中央教育審議会生涯学習分科会副分科会長・社会教育の在り方に関する特別部会副部会長）は、生涯学習の観点から日本の教育を見つめてこられた方です。日本の教育全体というよりは、「社会教育」に特化したお話になります。 ビデオの章立ては全 14 章あり、前半ではこれまでの歴史を振り返りつつ「何が社会の基盤になっているか」「どう社会教育を進めるか」という議論があります。中盤の第４、５章では、時代背景や社会の大きな変化に対する深い危機感が語られます。そして後半では、それらをリードする「社会教育主事」や「社会教育士」といった人材の役割や具体的なアプローチ方法へと続いていきます。最後に「自治を耕す社会教育」として、「社会のことを自分ごとにすることが『自治』であり、それこそが民主主義なのだ」というまとめに入ります。 非常に語り口が優しく分かりやすいお話ですので、ぜひお手元のスライド資料も参考にしながらご覧ください。 （牧野先生ビデオ上映）
委員	盛りだくさんな内容でしたが、いかがでしたでしょうか。この動画は YouTube で視聴できますので、ぜひ何度もご覧ください。 今まで私たちが迷っていたことの答えが、このなかにあると感じています。

	茅野市教育大綱の基本計画に「学びを支える」「活用を支える」「つながりを支える」という３つの柱を入れています。これまでの委員の皆様の感想から「学びは一生懸命やってきたが、つながりを支えるところまでは十分に達していないのではないか」という反省も出ていました。 社会教育はすべての政策の基盤であり、社会とは「人と人とのつながり」そのものです。それが失われると、社会の底が抜けてしまいます。時代が激しく変化するなかで、次の世代に何を残せるのか。残せるものは「しっかりとした社会の仕組みやあり方」であるという指摘は、まさにその通りだと思います。 茅野市の社会教育を考え、変えていくことができるのは、ここにいる皆様だけです。他市町村の社会教育委員の連絡会に出てみても、どこの市町村も何をして良いか手探りの状態です。茅野市が先進的な舵を切っていることが示せれば、他の地域にとっても素晴らしい参考事例になります。ぜひ、各部門で何ができるか話し合いをお願いします。
生涯学習課長	それでは委員の皆様、担当部門のテーブルへ移動をお願いします。感想を共有し合うだけでも十分ですので、約 12 分間で話し合いをお願いします。 （各グループでの話し合い）
生涯学習課長	皆様、活発なお話をありがとうございました。各グループでの発表を 2 分以内でお願いいたします。まずは図書館グループからお願いします。
生涯学習係長	【図書館グループの発表】 社会教育において、時代背景が変わるなか「人と人とのつながり」をどう作るか、そこに参画することが「自治」につながるのではないか。昔は多かった地域のつながりが希薄になり、現在の区の事業なども、行政がお膳立てしてイベントを行うことで、市民にとって「他人事」になっている部分があるのではないかという意見がありました。 今後は、行政側もただ施策を行うだけでなく「つながりを作る視点」を組み込んでいくことで、地域自治の土壌を育んでいく必要があります。図書館としても、目的を持った者同士を集めて新しいつながりを作る取り組みを考えていきたい、という意見がありました。
委員	図書館も、従来の「情報提供や生涯学習の場」という役割から、一歩踏み込んで「人と人をつなげるためにどうするか」という観点で施策を考えていきたいという話です。
博物館係長	【文化財グループの発表】 地区の役員をやる中で汐の管理をやらなければならなくなった。農家でもないのになぜかという話もあるが、自分は興味があった。汐は農業だけでなく。防火用水・災害などみんなにつながる大事なものである。地域で連綿と守り続け、今に生きているもの。博物館はこうしたことも地区とのつながりの中で興味を持ってもらうよう促す場所でありたい。

こども係長	【青少年グループの発表】 　このグループは学校の先生が多く、子どもたちと接するなかでの具体的な意見が出ました。「子どもが地域の主体として動くことで新しいつながりが生まれる」というテーマが出ましたが、こうした仕組みづくりには一過性ではなく長い時間がかかります。 　また、お話のなかで「要望が最終的にクレームになってしまうのは、参加者が『サービスを受ける側』に終始しているからであり、自分が作り手側になれば『より良くするためにどうするか』を前向きに考えられるようになる」という気づきがありました。 　先生からは「子どもたちが地域のイベントなどで単なる『労働力』のように割り振られて使われてしまう場面があり、それは持続可能な仕組みとは言えない」という鋭い指摘もありました。持続可能な仕組みを作るための鍵が何かという議論の途中で時間切れとなってしまいましたので、ぜひ次回へ持ち越したいと思います。
公民館係長	【公民館グループの発表】 　公民館の役割について改めて議論しました。 　これまでの３つの柱である「自己実現の場」「つながりの場」「人材育成」に加え、今まで少し弱くなっていた「地域への支援」こそが、これから取り組むべき最重要課題であるという認識で一致しました。 　ちょうど「自治・協働課」として組織統合されましたので、課としてもこの地域支援に力を入れてまいります。また、公民館運営審議会の進め方についても、今後見直しを行いながら考えていきたいと思います。
スポーツ健康係長	【スポーツグループの発表】 　スポーツは「人を集めやすく、つながりを作りやすい」という強みがあります。 　先日、子どもを対象に、協会と市が共催した「スポーツの入口になる遊び場イベント」が大変好評で、こうした生涯スポーツの入口を作る働きかけは非常に重要だと感じています。 　現在、オリンピック競技でもダンスやスケートボードといった、かつての「遊び」がスポーツへと多様化しています。また「する」だけでなく「観る」「応援する」「支える」こともスポーツの重要な一部であり、高齢化社会においても、孫の応援におじいちゃん、おばあちゃんが来るなど、世代間交流の役割も果たしています。時代に合わせた多様なスポーツの役割を取り込み、市民の健康づくりや可視化しづらい繋がりづくりを広げていきたいと話しました。
生涯学習課長	９　その他 　今後の会議の開催時間についてですが、お仕事の関係で昼間の出席が難しい委員もいますので、夜間開催を検討してはどうかと考えております。茅野市でも他の会議の多くが夜間開催となっておりますが、皆様いかがでしょうか。

委員	私個人としては、年齢的なこともあり、あまり遅い夜間の会議、７時や８時開始などはできれば避けていただきたいという気持ちがあります。
生涯学習課長	そうですね。最近は仕事終わりの時間を考慮し、18 時や 17 時半、18 時半といった時間から始まる会議も増えております。開催時間につきましては、委員の皆様のご意見をメール等で生涯学習課までお寄せいただければと思います。調整をさせていただきます。 10　閉会 ～正午　会議終了～